第八回 十湖賞 俳句大会 入選句集

「自然とともに生きる日々」を詠む。

人と人　心ふれあう未来へ　東区

■主催／浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会、浜松市　■協力／浜松文芸館

■後援／静岡県教育委員会、浜松市教育委員会、静岡県俳句協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、NHK 静岡放送局、テレビ静岡、静岡朝日テレビ、だいいちテレビ、K-mix、FM Haro!、ケーブル・ウィンディ

平成 28 年 2 月発行

＜発行元＞　浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

＜事務局＞　浜松市東区役所区振興課内

浜松市東区流通元町 20 番 3 号

TEL 053-424-0115

E メール e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

「十湖賞」と「浜松市東区俳句の里づくり事業」

松島十湖翁は江戸の末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家、さらには地域貢献に努めた篤志家です。生涯に創られた句は8千を超えるとも言われ、全国各地に多くの門人がおりました。

十湖翁の俳句は、松尾芭蕉翁から蕉風を継承すべく、花鳥風月といわれる、春夏秋冬・四季折々の自然、あるいはその中での生活を詠む伝統的なものです。

「はま松は出世城なり初松魚」は、「出世の街 浜松」を象徴する、浜松を誇る気持ちを詠んだ句です。

東区では、こうした十湖翁の遺徳を称えるとともに「郷土を愛する心」を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催いたしております。

元来、東区内には多くの句碑群があり、同時に多くの俳人をも輩出し、俳句の里としての側面を垣間見ることができます。

東区および実行委員会では、この様な背景のもと、「浜松市東区俳句の里づくり事業」を行っております。

第八回「十湖賞」俳句大会入選句集

平成28年2月11日(木)
於　浜松市総合産業展示館北館4階1号ホール

目次

ごあいさつ ・・・・・・・・・・ 2・3
十湖大賞 ・・・・・・・・・・ 4
十湖賞 ・・・・・・・・・・・・ 5
東区長賞
県教育長賞
市教育長賞 ・・・・・・・・・ 6
特選 ・・・・・・・・・・・・・ 7
佳作 ・・・・・・・・・・・・・ 8・9
奨励賞 ・・・・・・・・・・・・ 10～13

選者

九鬼あきゑ氏
（「推」主宰）

笹瀬節子氏
（「みづうみ」主宰）

鈴木裕之氏
（「海坂」主宰）

高柳克弘氏
（「鷹」編集長）

※五十音順

第八回「十湖賞」俳句大会投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全　体	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数
698	2,337	1,607	3,405	2,287	5,045	2,435	6,096	7,027	16,883

一般の部・地域別	
地域	投句数
市内	1,588
県内(浜松市外)	231
県外	518
合計	2,337

※募集期間：平成27年7月6日(月)～10月9日(金)

ごあいさつ

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会
委員長　松島 知次

第八回「十湖賞」俳句大会は「自然とともに生きる日々」をテーマに、全部門で７０２７人、１万６８８３句の投句をいただくことができました。前回と比べて投句者数は１２３８人、投句数は２７８７句増え、投句者数はこれまでの十湖賞の中で最多となりました。投句された皆様に厚く御礼申し上げます。

今回のテーマにある「自然」は季語を用いる俳句にとって欠かせないものです。句作を通して自然の中の小さな驚きや発見があったのではないでしょうか。

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会では、今後も幅広い世代が俳句を通して文学や自然への興味を持つきっかけ作りができるよう事業を進めてまいります。

終わりに、入選された皆様に心よりお祝い申し上げるとともに、投句していただいた皆様のますますのご活躍ご多幸をお祈り申し上げます。

浜松市東区長　朝月 雅則

東区では、明治・大正期に活躍した俳人・松島十湖翁により培われた俳句が盛んな地域性を活かし、平成19年度から「俳句の里づくり事業」を推進しております。この事業では、「十湖賞」俳句大会のほか、「小中高校俳句講座」、「俳句座談会」、「句碑めぐりツアー」等を行い、区内はもとより市内全域の俳句文化の振興を図っています。

本年度の「十湖賞」俳句大会における投句者数は、過去最高となりました。

また、本年度の新たな取り組みとして、「俳都」松山市のご協力のもと、「俳句甲子園出張講座」を開催いたしました。

今後も俳句文化が地域に根付くよう、様々な取組みを行い広く俳句の魅力を発信してまいります。

結びに、「十湖賞」俳句大会に投句していただいた多くの皆様や選者の方々をはじめ、本年度の「俳句の里づくり事業」に携わっていただいた全ての皆様に深く感謝申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

十湖大賞・十湖賞〈一般の部〉

背泳ぎの動かざる雲動かせり

長野県佐久市　西村 忠士

評：ダイナミックでスケールの大きな一句。プールでバックストロークで泳いでいる。その一掻き一掻きが空中の雲を動かしていると言う発想に注目。「動かざる雲動かせリ」が眼目。今後も斬新で息の太い句を期待したい。（九鬼あきを）

十湖賞

〈高校生の部〉

揺れ揺れて紅い鬼灯母が摘む

天竜高校春野校舎二年　山下 ひかる

評：紅く色づいた鬼灯を手に揺らしながら母が楽しんで摘み取っている。私に向って「どうこの鬼灯は」と問い掛けてくる。それを見ていると、私もこの鬼灯のように大切に育てられているのだと嬉しくなる。（鈴木裕之）

〈中学生の部〉

夕焼けに重ねるようにボール打つ

聖隷クリストファー中学校一年　松本 心

評：夕方まで野球の練習をしていたのでしょう。夕焼けに向かってボールを打ったことを、夕焼けにボールを重ねたと、述べ方を工夫しています。夕焼けの赤さに、ボールの白さが吸い込まれていく様が、鮮やかに浮かびます。（高柳克弘）

〈小学生の部〉

オクラのみどこをきってもおほしさま

神久呂小学校二年　鈴木 悠斗

評：オクラは秋の季語。中七「どこをきっても」がポイント。ナイフあるいは包丁で切って体験。秋の夜空を見上げて「おほしさま」のようだと、素直につぶやき、驚いている愛らしい瞳や、動作などがまことに小学生らしい。（笹瀬節子）

東区長賞

〈一般の部〉
蛇よぎる草に鼓動の生まれけり
浜松市中区　稲津 とし子

県教育長賞

〈高校生の部〉
生きていく向日葵揺れる日の下で
天竜高校三年　堀内 俊佑

市教育長賞

〈中学生の部〉
いわし雲大海原を上りけり
丸塚中学校一年　伊藤 颯吾

〈小学生の部〉
朝の鳥飛んで寒さをふっとばす
有玉小学校六年　斎藤 啓夢

特選

〈一般の部〉
けふだけの匂ひ新藁けふの青
島田市　太向 住江

日の本の国の色なり秋茄子
浜松市南区　下位 桂子

〈高校生の部〉
赤とんぼ沈む夕日にかくれけり
浜名高校三年　村井 和樹

白息の行く手にかすむ星と月
天竜高校三年　内山 知夏

〈中学生の部〉
涙してごめんね言えたいわし雲
浜松聴覚特別支援学校三年　梶村 悠宇

秋風の中をゴールへ一直線
笠井中学校三年　関谷 武

〈小学生の部〉
はちの巣の部屋は全室うまってる
積志小学校五年　佐田 圭司郎

プランターぼくのパセリが増えてきた
鴨江小学校六年　中村 信寛

佳作

〈一般の部〉

僚船の檣灯さ揺るたきや漁
浜松市浜北区　中川 正男

畑を打つ仁王に勝る母の指
熊本県阿蘇郡南阿蘇村　興呂木 和朗

食む牛の居らぬ新藁匂ひけり
磐田市　杉浦 鈴子

芋虫の地球を摑みつつ進む
浜松市中区　安立 由美子

跡を継ぐ子と見回りの稲の花
長崎県長崎市　西部 稔

虫の音や嫁ぐ娘と月9見る
浜松市中区　田中 信昭

〈高校生の部〉

禁断の林檎を囓り夜が明ける
浜松学芸高校二年　溝渕 比奈子

紫陽花に落ちる雫は空のいろ
浜松東高校二年　盛岡 陽介

鰯雲かえゆく形バスを待つ
浜松学芸高校二年　夏目 真帆

ポテチ食べ一人眺める天の川
天竜高校三年　村松 俊希

炎天下今日も一日走るのか
浜松東高校二年　岡松 海知

コンビニにまちかまえてるカブト虫
天竜高校三年　宮下 拓樹

〈中学生の部〉

コスモスにふわりと色をのせる風
与進中学校三年　倉橋 芹奈

虹が出るただそれだけで幸せで
丸塚中学校一年　矢波 真依

夕立や洗濯物へ母走る
笠井中学校三年　鈴木 遥奈

秋雨や小鳥育む屋根の中
与進中学校三年　永井 歩武

静かな日終わらないでと百合を見る
北浜東部中学校三年　石島 帆高

球を追う僕の背を押すせみしぐれ
積志中学校一年　一瀬 大空

〈小学生の部〉

からっ風追いこせ追いぬけ持久走
和田小学校六年　村松 泰輔

夏の川のぞけばそこは水族館
蒲小学校六年　神谷 一平

ぼくたちの夢がつまった桜かな
豊西小学校五年　青島 周平

さわがにをとってにがしてまたとって
大瀬小学校五年　市川 一姫

にげ水に近づくたびに遠くなる
与進小学校六年　中道 あかり

ケンカしてすっきりしているもみじの下
和田小学校六年　井上 桜輔

摑み（つかみ）　新藁（しんわら）　檣灯（しょうとう）
紫陽花（あじさい）　囓り（かじ-り）　林檎（りんご）

奨励賞

〈一般の部〉

朝夕に勝手口より富士涼し　静岡市葵区　今井 克己

芭蕉布に織り込んでゆく波の音　浜松市東区　越川 都

代掻きて富士は威容を正しけり　東京都大田区　中村 宏汀

墓啼いて真夜の棚田の水鏡　鹿児島県霧島市　秋野 三歩

田仕舞の日暮の煙直立す　焼津市　平田 きよし

一ヶ所にこだはりつづく松手入　東京都杉並区　大須賀 正

つくづくと父よ刈田の蘖す　浜松市南区　杉本 たつ子

沢の水引きて山家の芋水車　藤枝市　杉山 満寿

寂として一族の墓夏木立　浜松市東区　尾﨑 照代

トランペットひびく湖畔や草萌ゆる　浜松市中区　伊藤 たい

カブト虫摑めば森の匂いかな　浜松市中区　髙橋 紘一

撫子や晩年の見えぬてひとり　神戸市垂水区　小中 命子

海へ行く海の色した夏帽子　浜松市東区　石橋 朝子

思ひきり曲がりて終の胡瓜かな　浜松市東区　能勢 亜沙里

木犀や全校体操背伸びから　浜松市東区　鈴木 明寿

落款の朱の浮く小夜のしぐれかな　京都府亀岡市　井上 實

早苗植う青空にまた青足して　新潟県村上市　野口 沙紀

誘ふは十湖の句碑か道をしへ　千葉県松戸市　伊藤 和幸

落ち着けぬ月下美人の開く夜　浜松市東区　河村 あさゑ

秋簾基地に爆音ひびきたり　浜松市中区　伊藤 サト江

蘖す（ひこばえ-す）　墓（ひき）　啼いて（な-いて）
秋簾（あきすだれ）　落款（らっかん）　胡瓜（きゅうり）　摑め（つか-め）

〈高校生の部〉

紫のぶどうを食べる君の顔　天竜高校三年　河合 未来

渡り鳥空を切り裂く風になる　天竜高校三年　船見 凌哉

吹きぬけるいぐさの香り家の中　浜松東高校一年　大石 明穂

帰り道月の光と手をつなぐ　浜松東高校二年　大久保 美月

向日葵に目を奪われた登下校　浜松東高校二年　会場 日菜子

向日葵と私と兄と背比べ　浜松東高校二年　髙林 円花

桜舞う巣立ちの時はすぐそこに　浜松東高校二年　金原 和哉

君だけと桜の花を見ていたい　天竜高校三年　秋吉 アマンダ

ふくろうがやみにひそめるよるのぬし　静岡西高校三年　橋本 賢一郎

風吹いて私も揺れるコスモスと　天竜高校三年　横田 由衣

特別席蟋蟀のいる私の部屋　天竜高校春野校舎二年　河合 優希乃

オニは外大豆たくさん空を舞う　天竜高校三年　渥美 茉依子

ザッザッザ雪を鳴らして東海道　浜名高校二年　渥美 杏佳

夏休みひんやり冷たい武道場　浜松東高校二年　小杉 翔

浴衣着た見返り美人目の前に　浜松東高校二年　杉浦 萌香

柵の上走るリス達冬仕度　浜名高校三年　宮崎 奏一

蟋蟀（こおろぎ）

奨励賞

〈中学生の部〉

ひまわりと同じ輝き友の顔　与進中学校二年　生川 夏穂

美しく水にかがやく春の月　笠井中学校三年　竹内 裕弥

あせかいてコントラバスをひくわたし　静岡県西遠女子学園中学校一年　中津川 莉乃

柿の実をカラスがつつきどなる祖母　笠井中学校二年　松島 瑞希

黄水仙どこか遠くを見つめてる　与進中学校三年　宮﨑 麻矢

ヒグラシの声を追いかけ弟よ　静岡県西遠女子学園中学校一年　中西 ほのか

見てみたいトンボのめがねで近未来　積志中学校二年　佐田 崚太朗

天道虫君の体は赤信号　笠井中学校三年　谷内 信太朗

思い出があふれでている年賀状　天竜中学校二年　山田 麻利亜

かあさんが本気で泣いた卒業式　与進中学校二年　川路 秀虎

あみを持ちひまわり畑かけまわる　丸塚中学校二年　杉山 心佳子

名月に照らされ歩く塾帰り　丸塚中学校三年　袴田 幸侑

縁側で団扇片手に祖母話す　笠井中学校三年　清水 紀寿

台風や新人戦が近いのに　丸塚中学校一年　和田 佳周

道路にはひらひら踊る陽炎が　丸塚中学校二年　伊藤 瑞希

森の中静かにひびく滝の音　聖隷クリストファー中学校一年　渡邉 百々美

冷やかな夜空の下の一けん家　丸塚中学校一年　石戸 そらね

読書の秋読んで気になる梨の味　与進中学校二年　間渕 菜々海

一枚のかれ葉を流す川の音　与進中学校二年　鈴木 沙月

恋猫が夜風に打たれあつくなる　天竜中学校三年　松野 龍也

陽炎（かげろう）　団扇（うちわ）

〈小学生の部〉

ナスの牛祖父の笑顔を思い出す　大瀬小学校四年　山橋 麻央

土筆たち顔を出したら中学生　和田小学校六年　木戸 佑

潮干がり固くあたった大きいぞ　積志小学校五年　加藤 真輝

十湖池自然いっぱい虫いっぱい　豊西小学校三年　松島 修平

カブト虫夜なかになると元気だよ　大瀬小学校二年　福地 彩水

冬がんのごろりと一つ祖父の畑　大瀬小学校五年　坪井 優波

まちなかへおおすずめばちせめてくる　笠井小学校四年　秋山 優樹

もーくもくたべてみたいな夏の雲　大瀬小学校二年　落合 結南

青空を泳ぐ夢みた夏休み　豊西小学校六年　伊藤 蘭

木の鼓動ぼくの鼓動とおんなじだ　蒲小学校六年　東田 臨太朗

リスのほほ何でも入るふくろかな　笠井小学校六年　遠藤 拓海

ひまわりのせたけくらいになりたいな　蒲小学校六年　中井 康輔

ひがん花時計はどこにあるのかな　豊西小学校四年　岡本 紗和

公園の地面がおち葉のカーペット　与進小学校六年　中津川 奈々弥

からっ風干し芋いっぱいありがとう　笠井小学校五年　中道 大貴

すいかわりすいかわれずに地球わる　鴨江小学校四年　田島 義鵬

イルカショー色がいっしょのかきごおり　笠井小学校四年　植田 雛羽

いねを切るガッガッガッと大合そう　豊西小学校五年　松島 諒

草原をかけぬく少年赤い夏　和田小学校六年　林田 武叡

落ちてきたどんぐり池に船出した　大瀬小学校五年　齋藤 聖夏

土筆（つくし）